

「死生観とナラティヴ」 講演会

身近な人との死別は遺されたものに多大な影響を及ぼし、時としてうつ病、PTSD、複雑性悲嘆等の発症や、自殺の危機を招く。他方で、人はただ悲しみに打ち拉がれる訳ではなく、その辛い経験にも何らかの意味を求める。近年の死別研究においては、レジリエンスとナラティヴの関連が重視され、意味構成理論が多くの支持を得ている。本講演会では、「死別後の意味再構成を支えるナラティヴワーク」について、中京大学准教授の川島大輔先生に講演いただき、死生観とナラティヴに関する理論および支援の具体的方法について議論する。

日時: 2016年6月25日(土)13:30-17:00

場所: 立命館大学 衣笠キャンパス 創思館403・404

※駐車スペースがございませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい。

企画・司会: やまだようこ先生(立命館大学)

講演: 川島大輔先生(中京大学)

「死別後の意味再構成を支える ナラティヴワーク」

プログラム: 13:30-15:00講演、15:30-17:00討論

講演者 川島大輔先生

所属: 中京大学心理学部心理学科

専門分野: 生涯発達心理学、死生学、自殺予防

参加無料
申込不要

※日本心理学会の会員の方は、
当日の受付にて会員番号をお知らせ願います。

主催 立命館大学生存学研究センター 共催 ナラティヴと質的研究会(日本発達心理学会分科会)

お問合せは生存学研究センター事務局までお願いいたします。

TEL:075-465-8475 FAX:075-465-8245 E-mail: ars-vive@st.ritsume.ac.jp